

10月10日は目の愛護デー

ごあいさつ



一般社団法人大阪府眼科医会会長
佐堀 彰彦

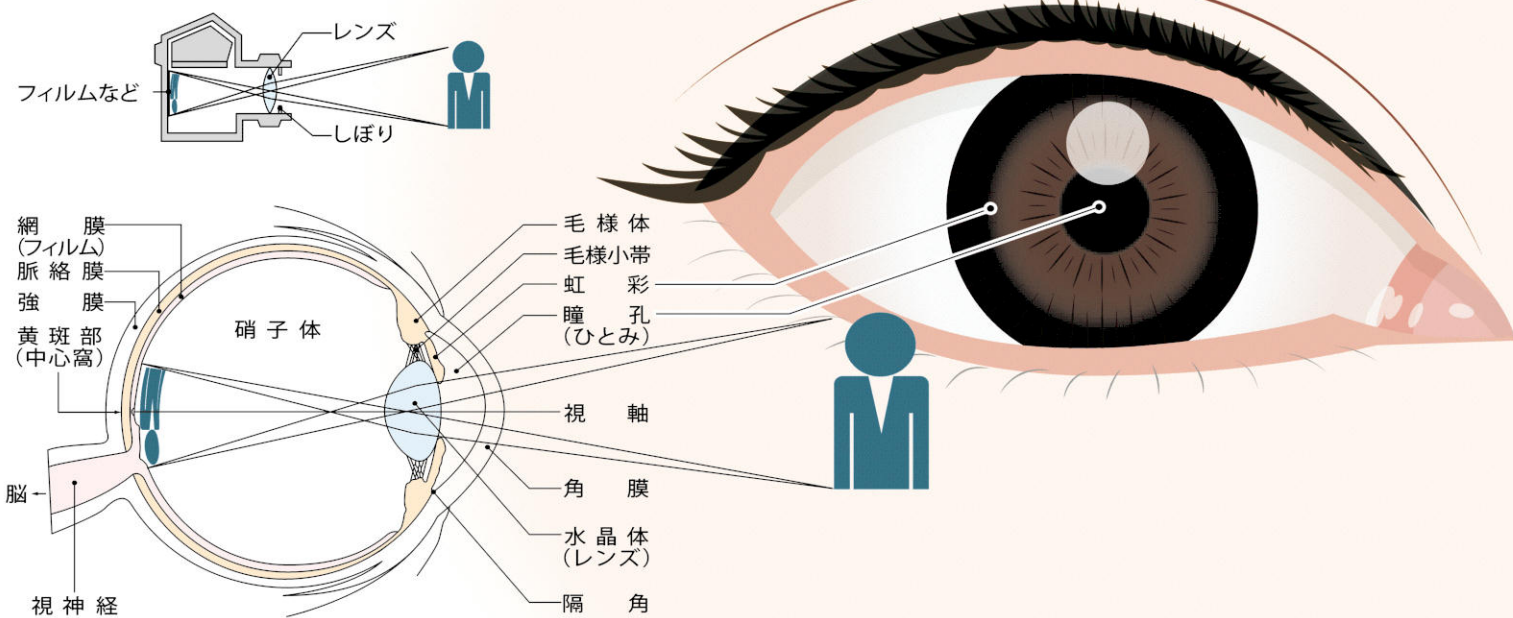
大阪府眼科医会は明治26年の創立以来、125年の歴史と伝統を有する日本最古の眼科医会です。平成5年の創立100周年を機に、より公益性を重視し、社団法人化して四半世紀になります。当会には大阪府内で眼科診療を行っている眼科開業医・病院勤務医のほぼ全員が加入しており、会員数は現在約1,300名に及んでいます。

昨今はインターネットの普及やマスメディアの健康ブームによって巷には眼科に関する玉石混交の医療情報が氾濫しています。そんな中で正しい眼科医療のあり方を皆様にお伝えし、地域の眼科医療の充実を図っていくことが眼科医会の責務と考えております。

当会では、月1回第2金曜日の

日本ライトハウスなど眼科関係諸団体への助成事業など様々な社会的事業を展開し、1年を通じて府民の目の健康・福祉の向上に寄与しております。また毎年10月初旬の日祝連休2日間は、10月10日の「目の愛護デー」にちなみ、できるだけ多くの方々に「目の健康」について関心を持っていただくこと、梅田のプリーゼプラザで入場無料の「目のすべて展」を開催しており、今年で45回目を迎えます。

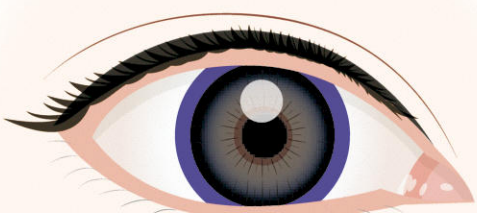
大阪府眼科医会では講習会や勉強会を通して眼科医会会員全体の倫理の高揚と資質の向上を図りながら、府民の皆様のご期待に応えるべく、眼科に関する地域医療の充実と府民の目の健康の保持増進に尚一層努めていきたいと考えております。



10月10日は「目の愛護デー」。数字の「10」を横にすると目に見えるため。厚生労働省が主唱し、毎年目の健康に関わる活動が展開される。今年のスローガンは「今年もしっかり目目チェック。目のことはお近くの眼科専門医へ」。2大失明原因である緑内障と糖尿病網膜症は、初期には自覚症状が全くない。目まつわる病気の症状と対策について大阪府眼科医会の医師に聞いた。

検診でしっかりと目の健康

「カラーコンタクトレンズ」



カラーコンタクトレンズ(カラコン)は高度管理医療機器の一つですがインターネットでも入手可能なため、雑貨店と同じ感覚で購入する方が増えています。カラコンを購入する時、レンズの内面の曲率半径であるベースカーブ(BC)とサイズはレンズによって決まっています。度数だけでなく指定することになります。分らない場合は、一度眼科で処方してもらったクリアレンズと同じ度数で購入します。

カラコン使用も眼科受診を

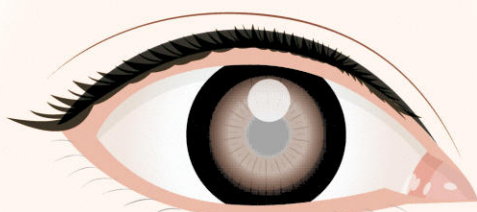


アイアイ眼科医院
宮本 裕子 院長

カラコンは高度管理医療機器の一つですが、インターネットでも入手可能なため、雑貨店と同じ感覚で購入する方が増えています。カラコンを購入する時、レンズの内面の曲率半径であるベースカーブ(BC)とサイズはレンズによって決まっています。度数だけでなく指定することになります。分らない場合は、一度眼科で処方してもらったクリアレンズと同じ度数で購入します。

カラコンは高度管理医療機器の一つですが、インターネットでも入手可能なため、雑貨店と同じ感覚で購入する方が増えています。カラコンを購入する時、レンズの内面の曲率半径であるベースカーブ(BC)とサイズはレンズによって決まっています。度数だけでなく指定することになります。分らない場合は、一度眼科で処方してもらったクリアレンズと同じ度数で購入します。

「白内障」



白内障とは眼の中のレンズの役割をする水晶体が濁って視力が低下する病気です。水晶体は直径10mm前後の凸レンズで水晶体嚢のうしろに透明な膜に包まれていて、中身は透明なタンパク質と水分でできています。原因に多いのが加齢によるもので、老人性白内障と呼ばれています。ほかに先天性のものや外傷、アトピー、薬剤放射線によるもの、その他目の病気(炎症)に続いて起こるものがあります。水晶体が濁ると、光がうまく透過できなくなり、乱反射して網膜に鮮明な像が結ばなくなり、目のかすみや物が二重に見えるたり、まぶしいといった症状が現れ、次第に視力が低下してきます。



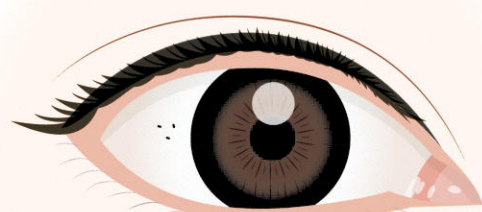
上田眼科
上田 淳子 院長

治療には薬物療法と手術があります。点眼薬では水晶体の濁りを元には戻せません。進行した白内障は濁った水晶体を手術で取り除き、眼内レンズを挿入して視力を回復させます。手術後は、手術の際に残っていた水晶体が濁って、後発白内障が現れることがあります。これは手術の必要はなく、濁りはレーザーを使って簡単に取除けます。

最もポピュラーな目の病気

近年、白内障手術は飛躍的に進歩しており、安全かつ短時間で、行われ、日帰り手術も普及しています。初期段階は自覚症状がなく、気が付きにくいのですが、少しも目のかすみや視力に異常を感じたら気軽に眼科を受診してください。

「飛蚊症」



「飛蚊症」と書いて「ひぶんしょう」と読みます。眼科の中でありふれた症状で、黒い蚊のような点がフワフワ動いて見える症状のことです。人によっては糸くずやホコリ、アメーバのようなものが見えることもありますが、これは何が見えているのか、影が見えていないわけではなく、ほとんどは硝子体(ガラス体)に元々透明な硝子体に年をとるとともに濁りが生じることによって起ります。

急な変化は危ないサイン

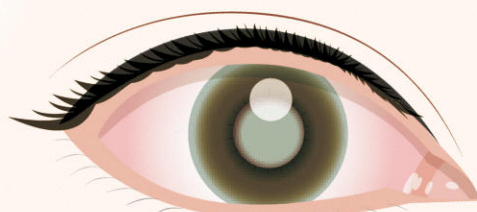


つしかわ眼科
辻川 元庸 院長

網膜裂孔、網膜剥離、硝子体出血、ぶどう膜炎などの病気が原因で飛蚊症が生じる場合があります。原因によっては放置すると重大な視力障害を引き起こす場合がありますので、早めの診断治療が必要となります。

特に急に増えてきた(今まで見えていたが急に増えた)という状態であれば要注意です。できるだけ早く受診しましょう。数カ月前から変わらなくなってきた状態から急に増えることが多いですが、網膜剥離などが潜んでいる可能性があります。一度受診することをお勧めします。

「緑内障」



緑内障は、40歳以上の約20人に1人、70歳以上では約10人に1人の割合で見つかる目の病気です。決して珍しいものはありません。しかも、目の痛みや視力低下などの自覚症状がないまま、視野(視野)が徐々に欠けていく慢性のタイプが最も多いの要注意です。



杉浦眼科
杉浦 寅男 院長

緑内障は、目の硬さに相対する眼圧が正常範囲よりも高いタイプと、正常範囲内のタイプ(正常眼圧緑内障)があります。糖尿病網膜症、ぶどう膜炎などほかの目の病気に続いて起こることもあります。

意外に多い緑内障

緑内障は放置することなく信頼できる眼科専門医への定期的な受診を続けよう、うまく付き合っていくことが大切です。